【真田中央公民館（第6回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月18日（金曜日） 19:00～20:00
2 会 場	真田中央公民館 大ホール
3 出 席 者	●上田バス株式会社 新井取締役乗合部長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日

協 議 事 項 等

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 交通事業者の現状について（上田バス株式会社 新井取締役乗合部長）

5 質疑応答

●参加者

- ・渋沢線を子どもが利用している。利用者が少ない中、毎日安全に運行していただき感謝している。
- ・今回、渋沢線がなくなりスクールバス対応になるとのことだが、どんな形で運行するかが決まっていれば教えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・スクールバスについては教育委員会で対応することとなっており、詳細についてこれから詰めていく。
- ・不便にならないような形で運行したいと考えているため、決まったところでお伝えできればと思う。

●参加者

- ・配布資料のスライド番号 25 ページ目に記載されているパターンダイヤの図について、傍陽線が直線でなく折れ曲がって記載されているが、大倉と入軽井沢の関係でこういった表現にしているのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・傍陽線は本原も経由しているため、折り曲げて表現をしている。

⇒●参加者

- ・傍陽線について、パターンダイヤ化されることでダイヤが今より減少するということはあるのか。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・運行回数については現状維持を考えている。
- ・傍陽線については、自治センター発の大倉行きなどを減らし、上田駅からの直通便を増やすよう検討をしている。

●参加者

- ・菅平、傍陽、真田線のパターンダイヤ化ということは3つの路線を組み合わせて30分間隔のダイヤを実現するという考えでよいか。
- ・傍陽線について、入軽井沢、大倉行きが現状7～8本ほどあるが、現状維持ということによいか。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・傍陽線については現行の便数を維持していく。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・パターンダイヤについて、菅平、傍陽、真田線は自治センターから路線が分かれていくため、センターまでは30分間隔での運行確保を行っていききたい。その先については現行の便数を維持していききたい。
- ・また自治センターについて、上田駅からの最終便が現状では22時発であるが、こういった遅い時間の便についても維持できるようダイヤを組んでいる最中である。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・バス事業者は何回も時刻表を作成していただき、試行錯誤している中である。
- ・真田地域は、平成23年に地域独自の真田地域公共交通利用促進協議会を立ち上げており、バスを利用しようという機運がある地域だと考えている。
- ・こういった協議会は他地域でも立ち上げが試みられたが、頓挫している。
- ・こういった取組が上田バスの路線維持につながっていると感じている。
- ・引き続きバスの利用をお願いできればと思う。

6 閉 会（上田市 交通政策課 横沢課長）